



ダイサギ (*Ardea alba*)

サギ科

体長 90cm ほどの大きいシラサギです。渡り鳥で、夏鳥として日本で繁殖して冬は南方へ渡るチュウダイサギと、中国東部で繁殖して冬に日本へ来る冬鳥のオオダイサギがいます。両方がやって来るため渡り鳥であるものの、ほぼ一年中見ることができます。

他のシラサギにチュウサギとコサギがいますが、これらは体長約60cmと小さいため、区別できます。

写真は、土師地区の別所池で冬に撮影しました。



上:オス、下:メス

キンクロハジロ (*Aythya fuligula*) カモ科

シベリアやヨーロッパ北部で夏に繁殖し、日本には冬に渡ってきます。メスは写真のように一年中地味な色合いのままですが、オスは繁殖期になると、白黒の羽となりよく目立ちます。目が金色、頭や背などが黒色、翼に現れる帯が白色ということで、合せてキンクロハジロとなったようです。水に潜って、貝、魚、エビ、カエルなどの動物や水草を食べます。

写真は、土師地区の中の池で冬に撮影しました。



スジエビ (*Palaemon paucidens*)

テナガエビ科

小さなエビですが、メスは5cmくらいまで成長します。日本の各地から東南アジアに広く生息しています。ほぼ肉食性で、水生昆虫や貝、小魚などを食べますが、藻類や水草も食べます。一方、亀や魚、サギなどの水鳥によく捕食されます。かつては、ため池に沢山いたのですが、外来魚のオオクチバスやブルーギルに食べられて、激減してしまいました。

写真は、土師地区の新池で撮影しました。



ミズニラ (*Isoetes japonica*) ミズニラ科

種子植物のニラに似ていますが、ミズニラは孢子によって繁殖する多年生植物です。

水槽で育てやすいため、アクアリウムの材料として利用されます。

生育地や数が急速に減少している植物で、準絶滅危惧種に指定されています。減少した原因の一つに除草剤などによる水質の悪化が挙げられています。

写真は、相坂地区の奥三谷中池で撮影しました。



ホソイ (*Juncus setchuensis*) イグサ科

山地に作られたため池周辺の湿地に生えています。よく似た植物に、畳表に利用されるイグサがありますが、ホソイは茎にイグサのような光沢が無く、写真のように粉をふいたような青白い色をしています。減少傾向にある植物で高知県などでは準絶滅危惧種に指定されています。外来種のコゴメイもよく似た植物で、道路脇にあるため池などに侵入しています。

写真は、相坂地区の奥三谷中池で撮影しました。